

<「事例検討会」全体を通しての感想・意見>

医療従事者	
小児科医	ゲーム障害への支援者のあるべき姿勢について、とても勉強になり、いままでの自分のスタンスはむしろ有害であったかもしれないと気がつきました。ただ、実際、具体的にどうしてゆけばよいか、という点では難しいと感じています。それぞれの地域性や使える資源も異なるため、行政が中心となり、そこに紹介すればいろいろな情報を持っていて、例えば、日中の居場所となるさまざまな教室であったり、進学先であったり、実社会での充実を目指すイベントや学習会、などの提案をしていただける、窓口があればありがたいと思いました。
小児科医	精神科の先生方が、学校のPTA講演会によべたらいいのにと、おもいました。地区担当。みたいのがあると呼びやすいかもしれませんが。今日も、お世話になりました。
ケースワーカー	ミニレクチャーのお話は事例も紹介していただき、ためになりました。ありがとうございました。
医療相談員	参加させていただきありがとうございました。ゲームの依存で、家族関係が悪化、ひきこもる、親のストレスが高くなり、それに関わる支援、ゲームにかかわる居場所作りが必要と改めて感じました。
その他	いろいろな立場、職種の方の話が聞けて良かったです。
教育関係者	
教員	専門家の詳しいお話を聞くことができ、大変勉強になりました。小学校での取り組みが、予防に繋がることから、教えていただいたことを早速同僚に伝え、研修等に活かしていきたいと思いました。
教員	ご講演やグループワーク、その後の質疑応答の講師の先生方のお話などどれも大変勉強になりました。グループワークではいろいろな職種の方々の話を聞くことができ、大変勉強になりました。リアルな場をどう作っていくかなど、今自分ができることをしようと力をいただきました。ありがとうございました。
教員	毎回、講師の先生方の熱意が感じられ、私自身のモチベーションが向上します。事例として取り上げてくださる症例も、日々身近に接している課題と類似しており、とても勉強になります。講師の先生方から教わった「寄り添い、認めていること」を早速本日言葉にしてみたところ、朝から「午後の卒業式の練習には参加したくない」とふてくされていた特別支援学級の子どもが自ら練習に参加してくれました。そのままだの子どもをまず認めて辛い気持ちに寄り添ってあげること、これが大切なんだな、と初心に戻れました。本当にありがとうございます。
教員	吉永先生の内容も分かりやすく、グループワークも話しやすい題でした。
教員	今回もミニレクチャーから、意見交換と充実した内容で、すぐにも活かせるような内容ばかりであった。ミニレクチャーは前回の復習を元に、治療の様子が分かった。意見交換会では、それぞれの立場で具体的な事例や取組を聞くことができた。
教員	勤務校では、そんなにゲームをしたいわけではない、ほかに特にやること（やりたいこと）がないからゲームをしている、そしてやめられないといった感じの生徒が多いように思います。障害や依存になる前に、「気持ちに寄り添う」だけでなく、リアルに楽しめることに巡り合えるように、「軽く押す」かわりをしていくことの必要性を改めて感じました。グループディスカッションでは、普段接することがない医療関係の方と情報交換ができて、大変有意義でした。
教員	ゲーム障害の理解が深まりました。
教員	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム障がいを否認することと、背景にある本人の課題、困りごとを知ることが相反していて難しそうだと感じました。 ・本人の治そうという動機づけが大切になるのだなと理解しました。 ・「リアルでの依存先」、これをどう見つけるか、どこに、何を見つけたかが難しそうだと思います。 ・学校職員として、保護者を学校だけでなく、他の関係機関とつなぐことが大事だと思ってきました。それに加えて、本人の気持ちをありのまま受容できる関係性をつくっていかなくてはならないと思いました。

教員	負担にならない構成だったように思います。参加すること自体が安全感となる感じでありがたいです。
教員	楽しかったです。 グループに私と同じ教育関係者が多かったので、リアルにイメージできながら対話できました。とてもよかったです。 しかし、その一方、ひょっとしたら、異業種の方が含まれていたら、また別な視点での話ができただけではないかという思いもあります。 一長一短あり、難しい点もありますが、異業種交流と言う視点からグループ分けを考えるのも面白いと思いました。
教員	グループでの話し合いで、ゲーム依存の場合、子どもの興味に歩み寄る（一緒にゲームをする、ゲームの話題）ことが関係性構築のために有効だという話が出ました。しかし、学校現場で実際に授業中タブレットを手放せない児童がいた時、教師が歩み寄ってそのタブレットでのゲームを話題にすると、他の児童から「タブレットでのゲーム使用をなぜ注意しないのか」と不満が出るのが考えられます。ぜひ保護者への支援に加えて、「学校現場での本人への声掛けや対応」について、ご指導いただけると幸いです。よろしくお願いいたします。
教員	とてもためになった。
教員	ゲーム障害について、吉永先生からのご講義をきくことができ、理解が深まりました。 家族支援やリアルな依存について、グループワークで意見交換できたことも、とてもよかったです。また参加したいです。ありがとうございました。
教員	保護者に対する具体的な支援 話題に上がった保護者を啓発する活動について実践を知りたい。
教員	ゲーム依存を解決するには膨大な労力がかかることが再認識できました。
教員	前回に引き続き参加させていただきましたが、とても有意義な研修でした。また、次回も是非お願いいたします。
教員	様々な職種の方と話す中でとても身近な話題だと強く実感できました。
教員	貴重な研修機会でした。ありがとうございました。
教員	新潟県内でのゲーム障害の治療の状況や対応を知ることができ、大変ありがたかったです。
教員	いろいろな立場の方の話が聞けて良かった。
養護教諭	他職種の方の意見を聞ける貴重な機会だと思います。
養護教諭	大変勉強になりました。ありがとうございました。 家族支援の重要性を感じるとともに、難しさを感じました。
養護教諭	今回本人のリアルの充実と家族支援について検討する中で、リアルの充実については学校でできることも多いと感じましたが、家族支援については難しさを感じました。グループワークでは依存症専門機関のS Wさんから「私」を主語にしたメッセージのやり取りをする練習をしていると伺い、そういったコミュニケーションスキルを保護者に発信していくことが大切だと感じました。ついゲームは家庭の問題と思ってしまいましたが、家庭の困り感を受け止められる心づもりで対応したいと思います。
養護教諭	私はまだ有効だった支援や居場所などを発見できておらず、ゲーム障害傾向の児童の支援に行き止まり感を感じていたが、さまざまな職種の方の有効だった支援をお聞きして勉強になった。業務でも保護者に共感的に接して関係づくりをし、一緒になって支援していけると良いなと感じた。
養護教諭	短い時間でしたが、大変充実した内容でした。グループワークで様々な方のお話を聴くことができ良かったです。
養護教諭	健康課題解決のために必要な知識だと感じました。具体的事例を聞くことにより自分の引き出しが増やせてありがたいです。ありがとうございます。

スクールカウンセラー	ゲーム依存で困っている家庭はたくさんあります 保護者向けの講演会なども企画されることを希望します
スクールカウンセラー	小学校3年生でも取り上げられないとお話しされていたので、SCとして入学前にゲーム利用について情報提供したり、低学年段階でPTA活動などとして利用のルールを決める活動などをしてもらったりすることで予防に貢献できるかもしれないと思いました。積極的に学校に提案していきたいと思いました。
その他	吉永先生の講義については、ゲーム障害については、前回よりもより具体的な対応・対策に踏み込んだお話もあり、とても参考になりました。特にまずは大人がリテラシーを持つ必要があるというお話は我が身を振り返り、考える必要があると感じました。また、ディスカッションではかわちクリニックの河内先生のおっしゃっていた、「子どもを敵にしない」親のためのプログラムが勉強になりました。実際にそこまで高度なプログラムの実施は難しいかもしれませんが、今後家族会等を企画していくうえで参考にしたいと思います。
その他	子どもを信用し、自分で管理できる力を身につけるために、どう保護者を支えていけばいいかヒントをいただきました。教育支援センターで不登校の子どもたちを支援する中で、卒業生・若者の支援の課題から、卒業後のフォローアップ会や相談を始めました。卒業後の居場所の必要性を感じます。長期にひきこもっている方の支援として、新潟市のひきこもり支援センターの全県バージョンはありますか？ グループワークの中で、体の使い方やカイロプラティック、感覚統合療法によって、ゲーム依存が止まった事例を伺い参考になりました。
その他	前回は引き続き、ゲーム障害についてのお話を聞くことができ、理解を深めることができました。また、グループワークでは、医師、行政など様々な立場でかかわっている人のお話を聞くことができ、大変参考になりました。ありがとうございました。
保健・福祉関係者	
相談員	・ゲーム依存のこと、その背景を理解することが大前提、理解できたとは言えないけれど、間違えない方向で関わられるのではないかと考えている。教えていただき感謝しています。 ・個々に状況が異なり、支援のアイデアが必要となることがわかると同時に、地域でできることは、あるなと思った。多くはないかもしれないが。 親御さんに対して、お子さんに対して一生懸命にかかわっていきこうと前向きな気持ちになれました。
相談員	吉永先生からの事例を含めた広義がわかりやすいです。リアルな依存先をどれだけ増やすことができるか、自分の範囲でできることを取り組んでいきたいと思います。どれだけ選択肢を示すことができるか。まずは相談者さんとの関係を作ることに注力したいと思います。
相談員	ゲーム障害の治療の流れ家族支援→本人支援→リアル充実が、大変参考になった。ゲーム取り上げは解決方法ではないことが理解できた。 ゲームを巡っての親子関係悪化に悩む保護者が増えている。まず、お医者さんやベテラン先生でも、難しいと勉強されている問題だと知って欲しい。親が一人で悩んで、ゲームのせいで親子関係が修復不可能になることがないように支援していきたい。 子育て中の母親の立場では、先生方が母親の大変さ、負担軽減についてお話されていたのを、心強く感じた。ありがとうございます。
保健師	とても分かりやすく治療の流れが聞けて良かったです。 時間の関係があるとは思いますが、もう少し長く事例を聞いて見たかったです。
保健師	上手くいった事例を具体的に伺うことができ良かったです。今後の参考にさせていただきます。

保健師	<p>ケース支援で相談対応をするときに、最近の医療の状況やどんなことが繋いでいけることなのかなどがわかり、とても良かったです。</p> <p>小中学校では、取り組んでいる内容であり、乳幼児期からの取り組みは？と聞かれます。メディアを子供が静かにするためのおもちゃとして使っている方は多くいます。子供との遊び方や喜ばせ方の教室など、「子供を伸ばす」など親の興味を引きつつ行えたら良いのかなと思いました。ありがとうございました。</p>
行政機関担当者	ゲーム依存の地域連携
行政機関担当者	<p>色々な立場の方がいてびっくりしましたが、皆さん今現在どうしたらいいのか悩んでの参加なので、支援の結果を伝えるというテーマには無理があるように思えたり、もやもやした気持ちが残るので、似た立場で意見を出しあったり、元になる事例から広げていくのが良かったかな、と思いました。</p>
相談機関従事者	<p>これまで「ゲーム障害」の方やご家族に対し、表面に見えている部分にばかり焦点を当て、解決を検討する傾向にあったが、そのような行動に至った背景を丁寧に掘り下げていき、その生きづらさや困り感に寄り添っていかねばならないことや親子関係の修復が回復の鍵になっていることを学んだ。</p> <p>また、グループワークでは「リアルな居場所」や「家族支援」について、意見交換をすることができ、自分が担当しているケースにも取り入れることができそうな事項も幾つかあったので、ぜひ、取り組んでいきたい。</p>
その他	<p>学校の現場でタブレットを使用する時間が増えてきているが現場職員が上手く利用できる人と対応できていない人の差があるように感じる。</p> <p>本人も含め家庭にもアプローチをしていく必要はあるが家族への介入をすることは難しく感じる。家族に上手くアプローチする方法は？</p>
その他	<p>今回はより専門的な話で難しく感じる所もありましたが、とても勉強になりました。自身の専門性をさらに磨いていこうと思いました。</p> <p>入所施設ということもあり、他職種の方々と交流する機会が少ないため、今回のグループワークでも様々な職種の方の話聞いて有り難かったです。</p>
その他	<p>具体的な治療の流れ、本人や家族への支援を簡潔にまとめていただき、理解しやすかったです。</p> <p>リアルでの依存先を増やせるよう、地域の実情を踏まえながら出来る活動を行っていきます。</p> <p>グループワークで「友達と遊ぶ楽しさを知ると自然とゲームをしなくなる」というような話があり、本当にその通りだと思いました。</p>
その他	<p>ゲーム障害について理解を深めることができました。また、その支援について家族同士がつながれる場所づくりや本人の居場所づくりが有効であること。リアルな居場所を作ることの重要性について理解することができました。</p> <p>私は放課後等デイサービスに所属しており、本人の居場所としても十分にその役割を果たすことができると感じたとともに家族同士のつながり作りにも協力できるのではないかと可能性を感じました。</p>

<今後の事例検討会に関する要望等>

医療従事者	
小児科医	<p>ASDで、通信制高校をでた、もしくは中退した方の、就労への繋がりが難しいです。手帳取得しても、働きにでられなく、在宅副業に結びつくような特技もなく。まず、経験をつむ方法として、精神科のグループワークにさそってみても、体験で疲れて以降参加できない、など。身体は元気で、気持ちも優しく、しかし集団は、、、という若者が増えていて、もったいない資源だなあと、思っています。そういう方々へのご指導方法や、事例など教えていただきたいです。</p>
小児科医	<p>子どものうつ病、トラウマケアなどについて、お話お聞きできると嬉しいです。</p>
ケースワーカー	<p>・家族支援の必要性は痛感していますが、短期間では困難であると感じています。誰が、どこで、何を、どのような形で伝えるのが良いのか？グループワークが有効だと考えているが、どこで、誰が行うのか？期間や対象年齢等、様々な課題がある。家族支援の成功例があれば、教えていただきたい。</p>
医療相談員	<p>母子密着が強く、大人になってからの自己決定する力に問題が生じているケースが多いのではないかと思います。子ども時代に必要な関わり、支援などに携わった事例がありましたらご検討お願いします。</p>
教育関係者	

教員	発達障害を受け入れられず、受診を拒み続け、学校批判を繰り返す保護者が大きな問題となっています。保護者が子どもの明るい将来像が描けるようになるにはどうしたら良いでしょうか。
教員	愛着障がい関係について学びたいです、
教員	不登校や暴力、発達障害などの問題を抱えている子どもたちに自信をつけさせるのは、学力をつけてあげることだと思います。空間認知などに問題がある場合などで、何か効果的な改善方法や手助けとなるようなグッズの紹介など、医学的な立場からご紹介いただけませんか。
教員	同じ地域の他職種の方とグループワークしてみたいです。
教員	親子の関わり方の親の過干渉についてです。こどもへのかわいさあまり、全てを親がしてしまう、子どもの言葉や表現を代弁する、子どものトラブルに親が介入してきて、事態を更に悪くする等の事例が多くあります。親の対応が子どもの自立や社会性の育成を阻み、結果的に不登校や引きこもり、問題行動につながっています。今回のゲーム依存も家庭での関係やリアル体験不足という話でしたが、親子の関わり方について、医療現場からの事例等を元に協議できたり、レクチャーを受けることができれば、とてもありがたいです。
教員	中学校の適応指導教室を担当しています。近年、コミュニケーション能力の低下の中でも、こちらの問いかけに「反応がない生徒」が増え、対応に苦慮しています。原因や対応について知りたいです。
教員	医療機関を受診している子どもたちが、非常に多くの種類の薬を処方されていることがあり、薬物療法に対する基本的な理解を深めたいと思います。こちらに十分な知識がないためか、支援する子どもの処方薬について保護者から教えてもらうとき、「こんなに飲んで大丈夫なのか？」と思うこともあります。また、病院が替わると処方薬も変わることが多いですが、医師によって異なるものなのでしょうか。
教員	スクリーンタイムと自閉の関連について関心があります。
教員	子どものいじめ、不登校、発達障害（1次障がい、2次障がい）などに困っている親や家族や当事者である児童生徒の支援のあり方
教員	学校現場で有効な本人への声掛けや対応について
教員	母子共々自己肯定感が低く、母の社会参加が難しい、コミュニケーションが苦手という親子の医療へのつなぎ方
教員	グループセラピーについて。
教員	保護者が医療や教員の介入を許さない家庭の中で、ゲーム依存になっている子どもを、どうやって救えばいいのか。
教員	不登校傾向の児童生徒が増えています。根底には集団の不適応や学習の困難さ、メディア依存による生活リズムの崩れなど、多様な要因がありますが、不登校について取り上げていただけるとありがたいです。
教員	長期化する不登校児童生徒へのアウトリーチ型支援
養護教諭	睡眠障害(睡眠リズム障害、うつ等の精神疾患)についての理解と対応
養護教諭	愛着障害の背景や対応と経過、ストレス性の病や不定愁訴について
養護教諭	チックの子どもへの対応：学校不適応に陥った子どもと関わり、周りから自分がどう見られているかととらえるのが妥当でないと感じたことがあります。例えば発達の偏りなど、関連する何かが隠れていることはありますか。 子どもの統合失調症：ケースが少ないからこそ、対応に不安と焦りを感じます。特に発症すぐの頃の訴え（友だちと同じ椅子に座ると考えが伝わってしまう、食事を摂らなければ学校を休めると数日間断食する）等は理解し難かったです。病気について理解を深めたいです。
養護教諭	最近虐待の増加が問題となっていると感じますが、周りにはどのような支援ができるのか学びたいです。

養護教諭	ゲーム障害とまで行かなくても日々のメディア時間が長くなかなか学習や早く寝ることに繋がらず寝不足で体調不良を訴えて来る児童がいます。 年2回の元気アップ週間も、メディア2時間までという禁止のような目標では絵に描いたもちになって全く効果が出ません。ゲーム障害を、予防するために子供達が前向きにメディアに向き合っていけるにはどうしたらいいのかお聞きしたいです。
スクールカウンセラー	病院を退院後の経過 再発などについてもお聞きしたいです
その他	今回、後半のディスカッションで家族支援の話題が出ていましたが、虐待家庭や、親が精神疾患がある家庭など、困難のある家庭への支援をテーマとした研修があるとありがたいです。
その他	発達障がい支援、未診断や特性により生活に支障が出ている方への支援についてお話を伺いたいです。感覚統合や作業療法、感覚の交通整理をすることによって発達を支援する方法について、年齢別（乳幼児期や学齢期、大人になってからも有効な感覚の取り入れ方など）で有効だった事例を伺いたいです。
保健・福祉関係者	
相談員	家族内の不和がある場合。特に保護者に被虐待歴があり、精神不安定でその様子を見ている子への影響がある。不登校や、非行や、子の自傷行為に至ってしまう。
相談員	ペアレントトレーニング、親の子どもの障害受容について学びたい。
保健師	「愛着障がい」と思われる児童のケースを最近対応することが多くなりました。 家族からの協力が難しいケースが多いため、支援者がどのように、どこまで支援をしたらいいのか悩むことが多いです。 ぜひ、事例として取り上げていただけますよう、お願いいたします。
保健師	子どもの状況からみて、何かしらの介入や支援が必要だと思われる状況に対し、親は全く必要ないという考え方を持っている場合の効果的な介入方法など、子どもの支援で親に介入したい時（介入困難なケース）の対応について学びたいです。
保健師	トラウマの治療や支援について知りたいと思います。 3月23日に聞けると良いのですが、参加できないかもしれませんので、機会がありましたらお願い致します。
行政機関担当者	時間帯を日中にしてほしいです。参加したい同僚が何人かいましたが、時間の都合で参加者が叶わなかったようです。
行政機関担当者	医療的な取り組みや事例をもっと知りたい。（そこからヒントが得られるから）
相談機関従事者	二次障害として強迫性障害や統合失調症の前駆症状が現れている「医療機関の受診を拒否している中学生や高校生」を「本人が納得した形で医療機関の受診」に結び付けるには、どのようなことに配慮すべきかそのポイント（本人へ受診の必要性の説明の仕方など）や連携先について伺いたい。また、「拒否～受診」までの詳細なプロセスを伺いたい。
その他	タブレットやゲームの功罪。 学校や家庭以外でのこどもの居場所の作り方。（行政の制度、福祉現場などでできること） 本人、家族、学校、医療、行政、福祉を連携方法。
その他	今回初めて、事例検討会に参加させて頂きました率直に感じたのは、子どものケアというテーマを通じて、医療機関の方や教育現場の方、行政の方、福祉サービス事業所の方、臨床心理会等の専門家の方々などなかなか日常ではお話することができないような方々とグループワークを通じてお話できることが大変有意義であると感じました。 ぜひ、今後のこのスタイルを継続して頂けたらありがたいと思います。 また、今度のテーマとしては「ヤングケアラー（きょうだい支援）」について学べるとありがたいです。